

伊治城跡(宮城県栗原市)

これほりじょうあと



東北エミシに対峙するため、国府多賀城から更に北方の地に、767年に創建された古代城柵/律令政府による古代陸奥国経営の重要拠点の一つ/多賀城の北方約50kmに所在する/780年、伊治城に採用されていたエミシの族長、伊治皆麻呂(これほりのあざまる)が、来城していた国府の役人を殺害するという反乱が起こった/反乱軍は多賀城まで攻め上り、略奪放火のやり放題/このように蝦夷の不満は鬱積し、やがてエミシのリーダー、阿弭流為(アテルイ)軍vs坂上田村麻呂軍(朝廷軍)の戦いという事態に向かう

緑色のエリアが伊治城跡/その政庁は黄色の内郭の中心部分/北辺に築館出土文化財管理センターがある



ここは政庁跡の角/上図で国道4号線と市道が交わる所/説明板が立っている



伊治城跡

奈良時代後半の宮城県北部は、中央政府が積極的に進めていた征夷政策（蝦夷を治める政策）に対し蝦夷の抵抗が高まり非常に不安定な地域であった。伊治城は、このような情勢の中で、栗原郡を中心とした宮城県北部における征夷政策の拠点にするため神護景雲元年（七六七）に設置されたものである。

続日本紀や日本後紀には、延暦一五年（七九六）までの伊治城に係わる記事が見られ、なかでも「伊治公皆麻呂の乱」は当時の政府を震撼させる事件として著名である。これは、この地域の大領であった伊治公皆麻呂が宝亀一一年（七八〇）に按察使紀広純と牡鹿郡の大領道嶋大楯を伊治城で殺害し、さらに多賀城を攻撃し放火するというもので、このことはそれ以後の律令政府と蝦夷の長期にわたる戦争の発端となった。

伊治城跡の発掘調査は昭和五二年度から断続的に行われ、城生野大堀の台地北端では外郭北辺の区画施設である大溝と土塁が、唐崎・地藏堂地区では伊治城の中核である「政庁」や官衙ブロック（役所の実務を行なう場所）が検出されている。政庁は、東西約五五m、南北約六〇mの広がりを持ち、築地堀に囲まれた内部には、正殿・脇殿・後殿・前殿・南門などの建物が配されている。また、調査では皆麻呂の乱によると考えられる火災の跡も確認されている。

内郭・政庁のエリアをアップで見たところ

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



発掘調査範囲を示す図/これによると築館出土文化財管理センターの廻りにも堀や土塁があったようだ



この建物が栗原市築館出土文化財管理センター/ここに伊治城跡に関する資料が展示されているらしい



これは伊治城政庁跡から出土した軒先瓦



参考ホームページ

<https://bunka.nii.ac.jp/heritages/detail/203506>

<http://www.hb.pei.jp/shiro/mutsu/iji-ivo/>

<https://tochigi-burg.com/iji.htm>

http://www13.plala.or.jp/sakushiro/oshiro/oshiro_kaisetsu/miyagi/c_kh_td.html

<https://ameblo.jp/napo-jou/entry-12486975383.html>

<http://blog.arcpot.com/?eid=5>

http://mitinoku.biz/hist_walk/hist_miyagi/?p=483

<https://sites.google.com/a/onodenkan.net/lie-dao-cheng-zhi-ji-xing/gong-cheng-xian/yi-zhi-cheng?tmpl=%2Fsystem%2Fapp%2Ftemplates%2Fprint%2F&showPrintDialog=1>

<https://im7xzc.blog.ss-blog.jp/2014-08-12-1>

